

小学生年代の全国大会に関する調査

(中央競技団体・都道府県スポーツ少年団) ■

小学生年代の全国大会に関する意識調査

(単位スポーツ少年団)

概要版

調査の概要

(1) 調査目的

- 中央競技団体や都道府県スポーツ少年団、単位スポーツ少年団が小学生年代を対象とした全国大会、全国競技別交流大会に関して、それぞれの立場でどのような考えや意見をもっているのかを明らかにする。
- 現在、中央競技団体が実施している小学生年代を対象とした全国規模の大会および都道府県スポーツ少年団が実施している小学生年代を対象とした都道府県の大会ならびに単位スポーツ少年団(以下、単位団という。)の活動実態を把握する。
- 上記2点を踏まえ、今後の全国競技別交流大会の在り方の検討材料とする。

(2) 調査対象

小学生年代の全国大会に関する調査

- ① 中央競技団体(67 団体:JSPO 加盟団体 61、JSPO 準加盟団体 6)
- ② 都道府県スポーツ少年団(47 団体)

小学生年代の全国大会に関する意識調査

- ③ 単位団 27, 384 団

(指導者、役員、スタッフ、保護者、団員(過去に全国競技別交流大会に参加した高校生・大学生(リーダー)を想定)、2022年9月13日時点登録完了の単位団)

(3) 調査方法

調査票は Google フォームを用いて作成し、オンラインで回答・回収を行った。

対象ごとの調査票の送付方法は以下のとおりとした。

- ① 中央競技団体：
代表メールアドレス宛に回答フォームの URL を電子メールにて通知した。役員、担当委員会委員長等に所定のオンラインフォームからの回答を依頼した。
- ② 都道府県スポーツ少年団：
代表メールアドレス、担当者メールアドレスに電子メールにて通知した。本部長、副本部長、担当部会長等に所定のオンラインフォームから回答を依頼した。
- ③ 単位団：
スポーツ少年団登録システムを用いて、登録されているメールアドレス(代表メールアドレスおよび連絡先メールアドレスの最大 5 つ)に電子メールにて送付し、所定のオンラインフォームから回答を依頼した。

(4) 調査期間

- ① 中央競技団体:2022 年 9 月 12 日～10 月 24 日
- ② 都道府県スポーツ少年団:2022 年 9 月 12 日～10 月 17 日
- ③ 単位団:2022 年 9 月 13 日～10 月 3 日

(5) 回答数

	①中央競技団体	②都道府県スポーツ少年団	③単位団
対象数	67団体 (加盟団体61、準加盟団体6)	47団体	27,384団
回答数	65団体 (加盟団体59、準加盟団体6)	47団体	6,443名 ※

※「③単位団への調査」は、当該団への連絡先として登録されているメールアドレス宛(最大 5 つ)に送付した。そのため、「回答数」については対象の単位団から得られた回答者の人数合計であり、同一単位団の複数名から回答されている分を含んでいる。

※以下のページより、「①中央競技団体」における調査結果の図表は ①中央競技団体、「②都道府県スポーツ少年団」における調査結果の図表は ②都道府県スポーツ少年団、「③単位団」における調査結果の図表は ③単位団 として示す。

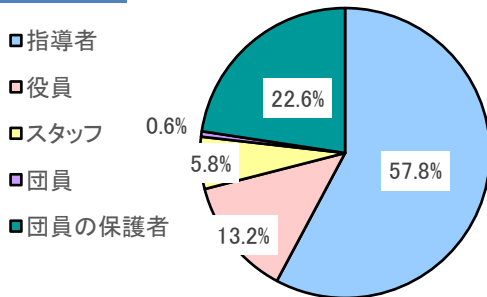
回答者属性【③単位団】

③単位団

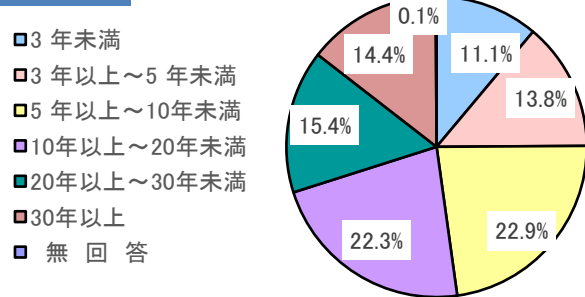
都道府県 (n=6443)

埼玉県	451	岐阜県	188	福井県	127	福岡県	103	島根県	64
茨城県	340	山形県	173	広島県	127	神奈川県	101	奈良県	61
北海道	298	愛知県	164	兵庫県	120	富山県	101	長崎県	44
静岡県	242	岩手県	162	大分県	120	山梨県	90	鳥取県	33
宮城県	225	福島県	158	長野県	119	沖縄県	89	佐賀県	30
鹿児島県	224	栃木県	151	新潟県	117	愛媛県	86	高知県	26
山口県	208	宮崎県	142	京都府	117	石川県	79	熊本県	24
滋賀県	194	東京都	135	大阪府	114	和歌山県	79		
秋田県	191	千葉県	133	香川県	111	青森県	78		
群馬県	190	岡山県	133	三重県	108	徳島県	73		

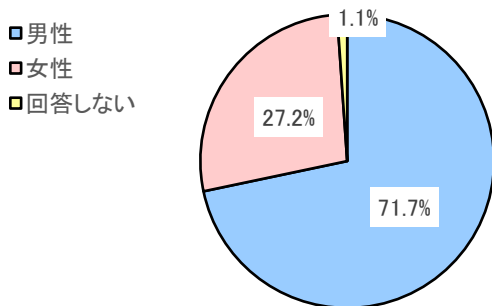
登録区分 (n=6443)



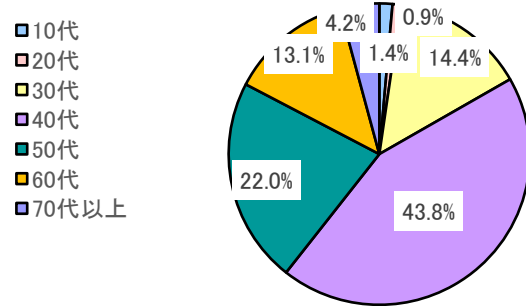
活動年数 (n=6443)



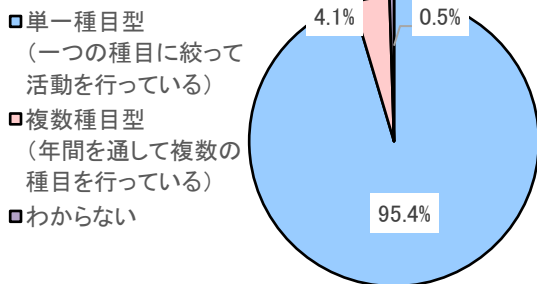
性別 (n=6443)



年代 (n=6443)



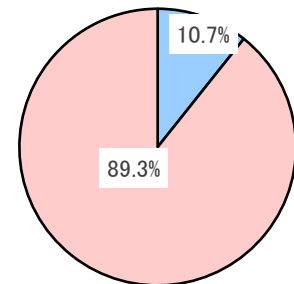
活動タイプ (n=6443)



日本スポーツ少年団
推奨活動範囲 (n=6032)

- 推奨活動範囲内
- 範囲外(それ以外)

※「日本スポーツ少年団推奨活動範囲」の目安として、平日1日2時間程度、休日・祝日では1日3時間程度、1週間に2、3回としている。



I

主催する大会の実施状況

中央競技団体は、小学生年代を対象とした全国規模の大会を75.4%が主催していた。都道府県スポーツ少年団は、小学生年代を対象とした都道府県規模の大会を91.5%が主催していた(図1)。

年間の大会数は、中央競技団体は、約8割が「1つ」「2つ」の大会であった。都道府県スポーツ少年団は81.4%が「6つ以上」の大会であり、様々な種目の大会を実施していることが想定される(図2)。参加人数においては、中央競技団体、都道府県スポーツ少年団ともに「501人以上」が参加する大規模な大会が一番多かった。(図3)。大会の趣旨については、中央競技団体、都道府県スポーツ少年団ともに「チャンピオンシップと選手間の交流を組み合わせた大会」が4割を上回っていた(図4)。大会の参加要件については、中央競技団体が「予選会の成績」、都道府県スポーツ少年団は「希望すれば出場可能」でそれぞれ5割を上回っていた(図5)。

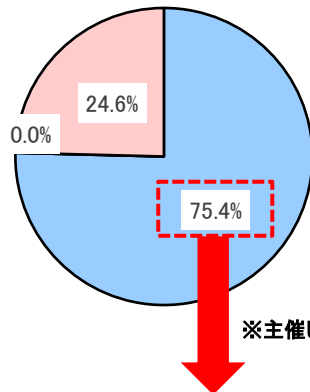
今後の大会実施予定は、中央競技団体では87.6%が「引き続き実施することが決定している」と回答した。都道府県スポーツ少年団では、「引き続き実施することが決定している」が56.0%、「未定」が32.4%と回答した(図6)。

現在の主催大会実施状況

①中央競技団体

(図1)主催有無 (n=65)

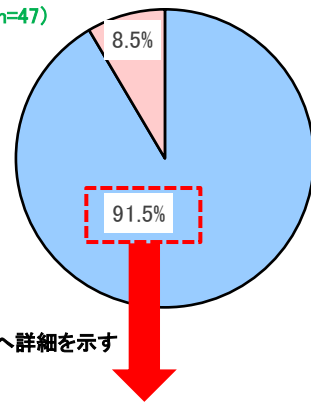
- 主催している
- 過去に主催していたが、現在は主催していない
- 実施していない



②都道府県スポーツ少年団

(図1)主催有無 (n=47)

- 主催している
- 主催していない

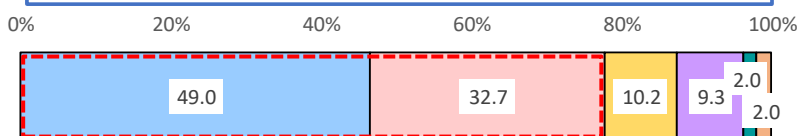


※主催している大会について、以下へ詳細を示す

(図2)大会数



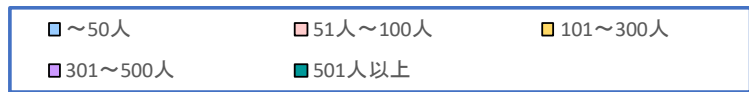
①中央競技団体 (n=49)



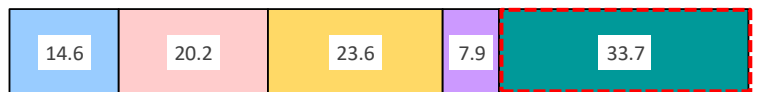
②都道府県スポーツ少年団 (n=43)



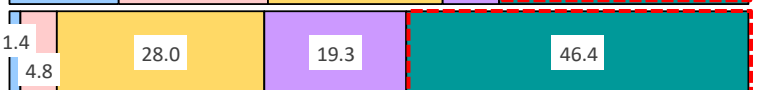
(図3)参加人数



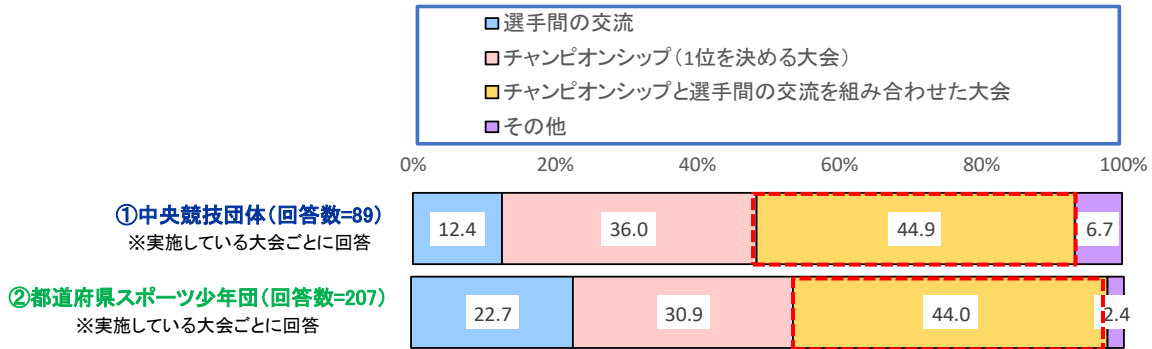
①中央競技団体 (回答数=89)
※実施している大会ごとに回答



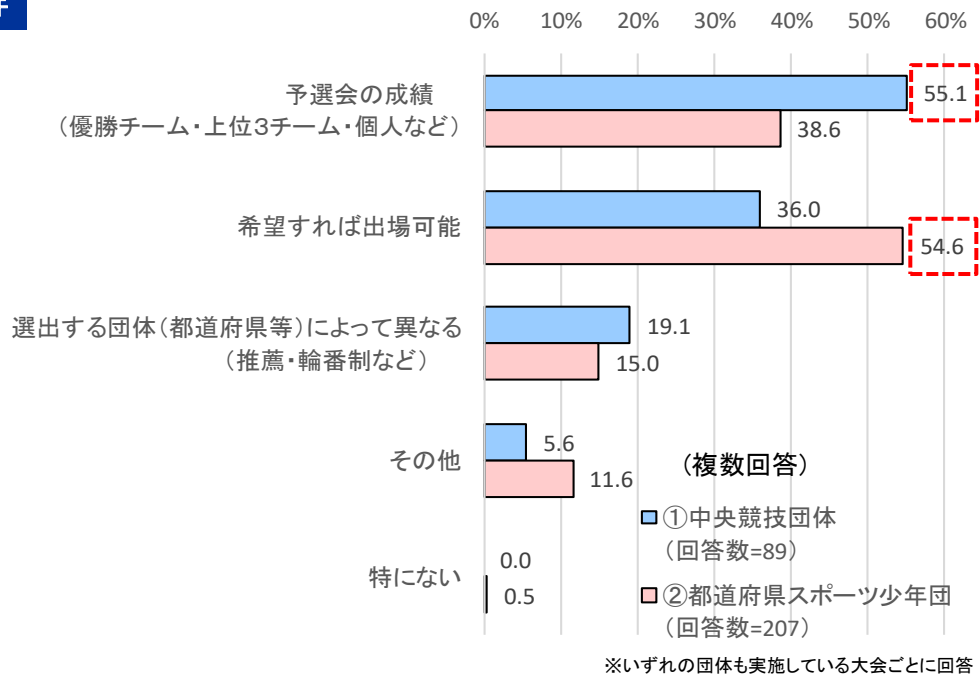
②都道府県スポーツ少年団 (回答数=207)
※実施している大会ごとに回答



(図 4)大会趣旨



(図 5)参加要件

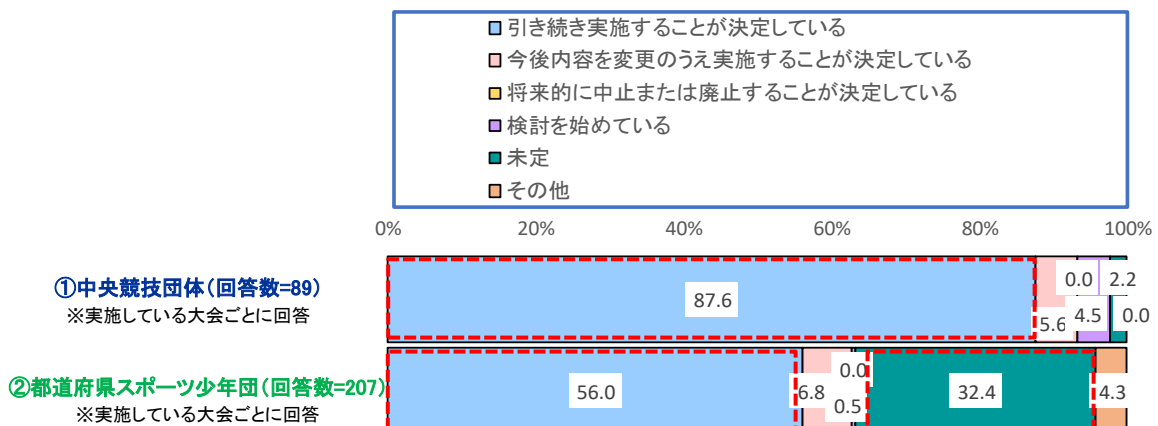


今後の大会実施予定

①中央競技団体

②都道府県スポーツ少年団

(図 6)今後の実施予定



Ⅱ

小学生年代の全国規模の大会に対する考え方

単位団において、小学生年代の全国規模の大会について「必要である」の回答は、地域ブロック別では四国が 68.2%で最も高く、年代別では 70 代(38.8%)から 20 代(76.3%)まで年代が下がるにつれ高くなっていった(図 7)。また、所属する単位団の現在の活動(日数、時間)を、“減らしたい”と回答している方より、“増やしたい”と回答している方が、「必要である」の回答がいずれも高くなっていった(図 8)。

中央競技団体、都道府県スポーツ少年団、単位団における全国規模の大会の必要有無を比較すると、「必要である」は中央競技団体 76.9%、単位団 58.3%、都道府県スポーツ少年団 25.5%の順でバラつきが出ていた(図 9)。

「必要である」と回答した理由については、「小学生年代から夢や目標となる大会として必要であるから」が中央競技団体(90.0%)、単位団(86.1%)において最も高くなっていった。「全国から参加する選手や指導者等との交流の場として必要であるから」において、都道府県スポーツ少年団は 100%が回答(※サンプル数が少ないため参考値)したが、単位団では 42.0%の回答となった。「全国規模の大会があることで、チーム・単位団が大会主催団体に登録しようと思うから」において、主催側となる都道府県スポーツ少年団は 50%が回答(※サンプル数が少ないため参考値)したが、登録する側である単位団では、6.4%だった(図 10)。

「必要ではない」と回答した方の理由は、単位団では、「指導が勝つことを目指した指導に極端に偏り、不適切な指導につながるから」(67.5%)が最も高く、「大会で勝つことよりも競技そのものを楽しませたいから」(67.0%)が続いた(図 11)。また、小学生年代に必要な大会規模はどこまでかについては、単位団では、「都道府県規模の大会まで」が 5 割を超えて高くなっていった(図 12)。

その他、小学生大会の在り方についての考えに当てはまるものは、「参加する子どもが平等に試合に出場できるルールを整備し、多くの子どもが楽しめる大会にした方がよい」が中央競技団体(66.2%)、都道府県スポーツ少年団(61.7%)でそれぞれ高いが、単位団では 31.7%と低くなっていった(図 13)。

小学生年代の全国大会の必要有無 (「③単位団」詳細)

③単位団

「③単位団」における、小学生年代の全国大会の必要有無について、以下の属性、項目別にて示す。

(図 7)

【対象属性／項目】

Q1.都道府県(地域ブロック)	Q7.単位団の活動タイプ
Q3.登録区分	Q8.主な活動種目(14 種目) ※
Q4.スポーツ少年団での活動年数	Q9.単位団の大会成績は競技レベル
Q5.性別	Q10.回答者自身の競技スポーツ歴
Q6.年代	

※Q8 主な活動種目は回答数の多かった上位 14 種目を分析対象とした。

(図 8)

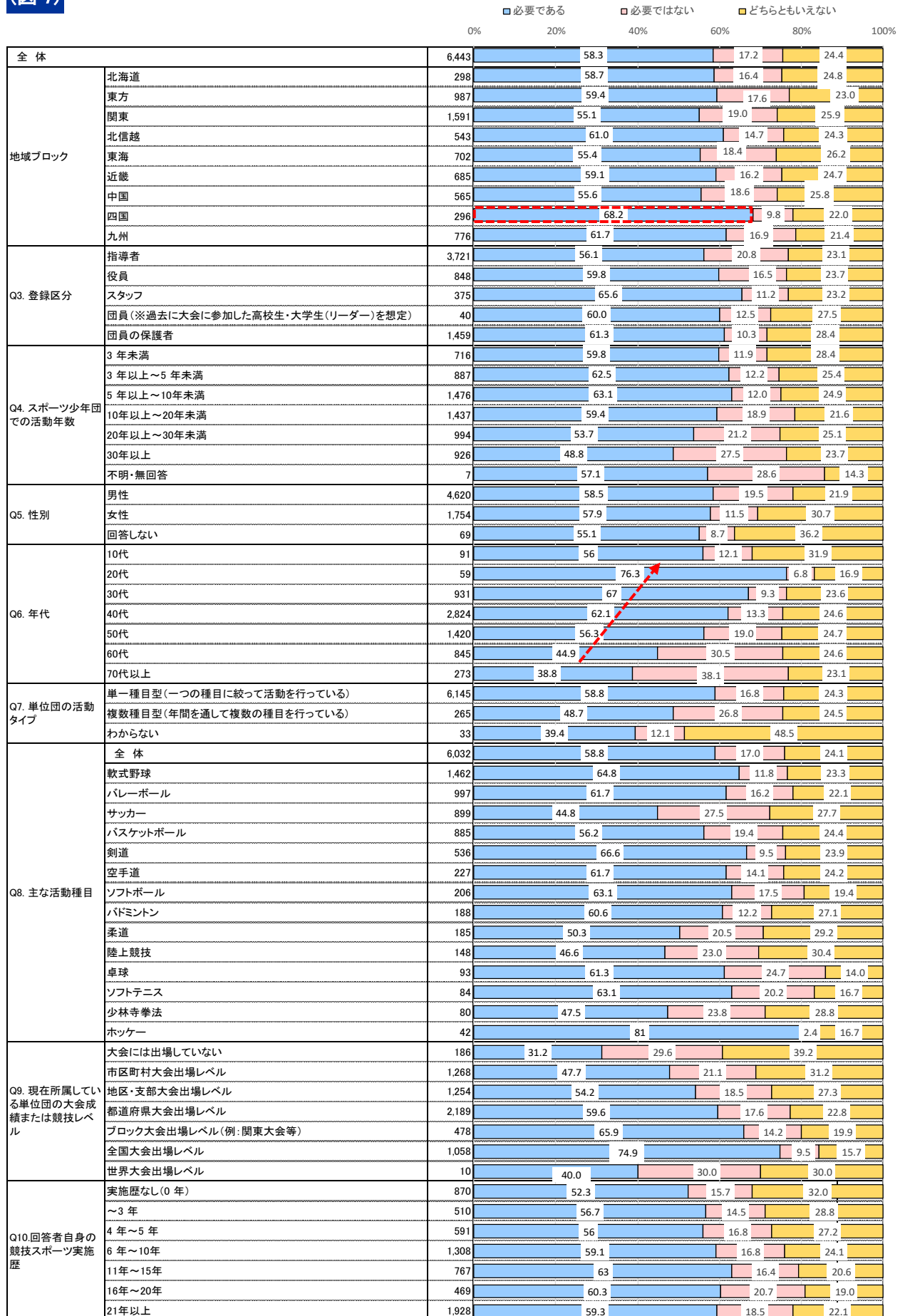
【対象属性／項目】

Q11.回答者自身の過去最高スポーツ成績	Q16.活動日数について
Q12.単位団の活動日数	Q17.活動時間について
Q13.単位団の 1 回の平均活動時間	Q18.活動種目 (競技別交流大会 5 種目とそれ以外)
Q14.1 カ月あたりの平均試合日数	Q12. × Q13. (「日本スポーツ少年団推奨活動範囲」※ の状況)
Q15.単位団が活動で目指していること	

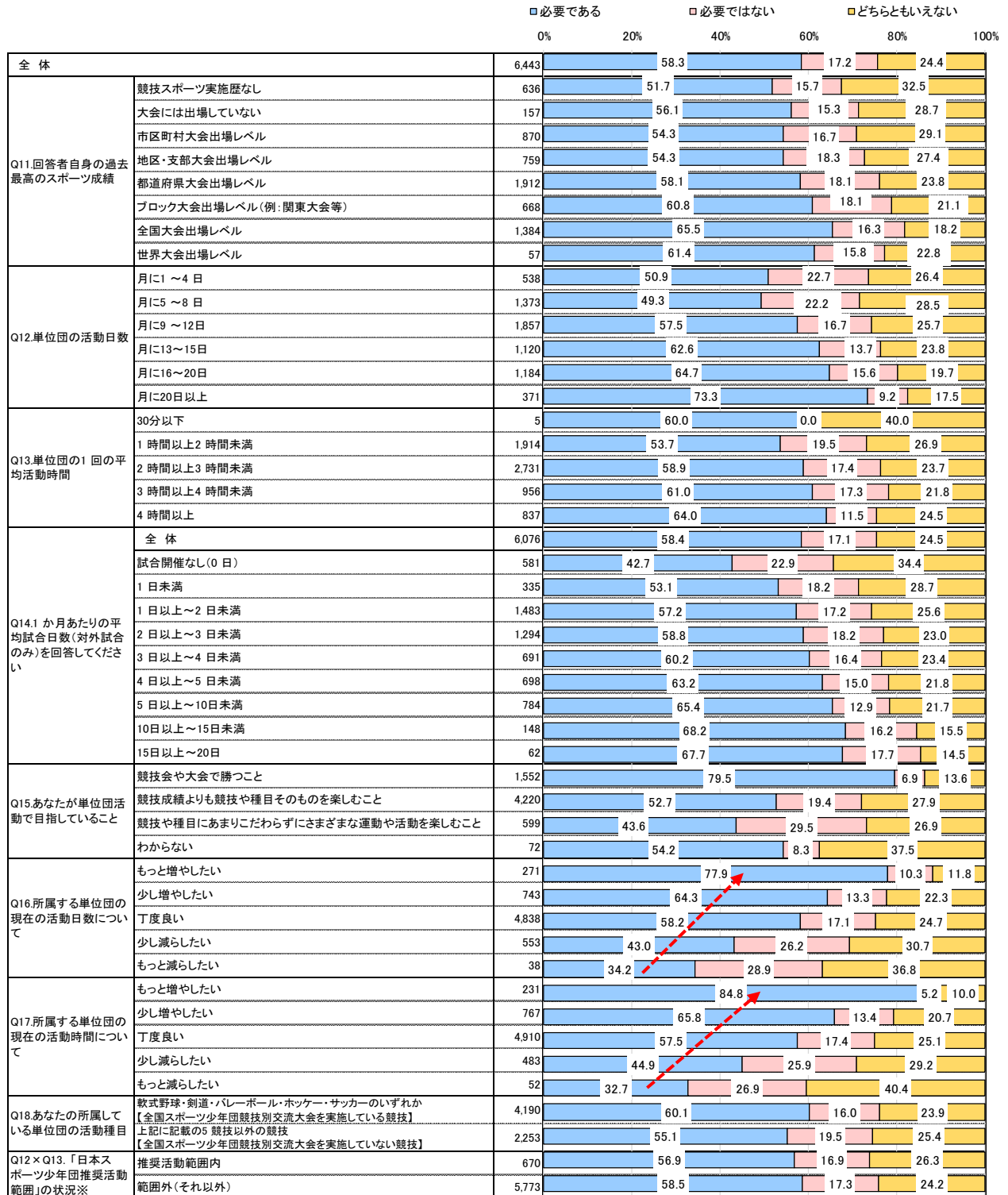
※「日本スポーツ少年団推奨活動範囲」の目安として、平日 1 日 2 時間程度、休日・祝日では 1 日 3 時間程度、1 週間に 2、3 回としている。

⇒グラフ表は「図 7」次ページ、「図 8」次々ページにて記載

(図 7)



(図 8)

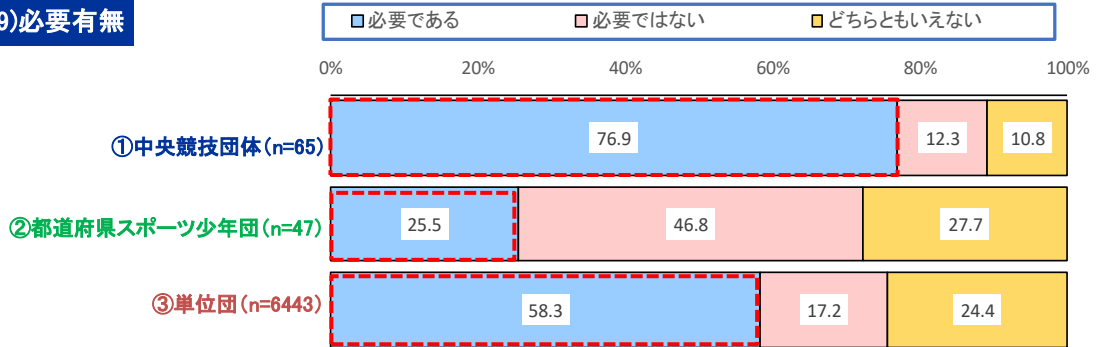


※ Q12×Q13 日本スポーツ少年団推奨活動範囲:1日あたり2～3時間程度、1週間に2～3日

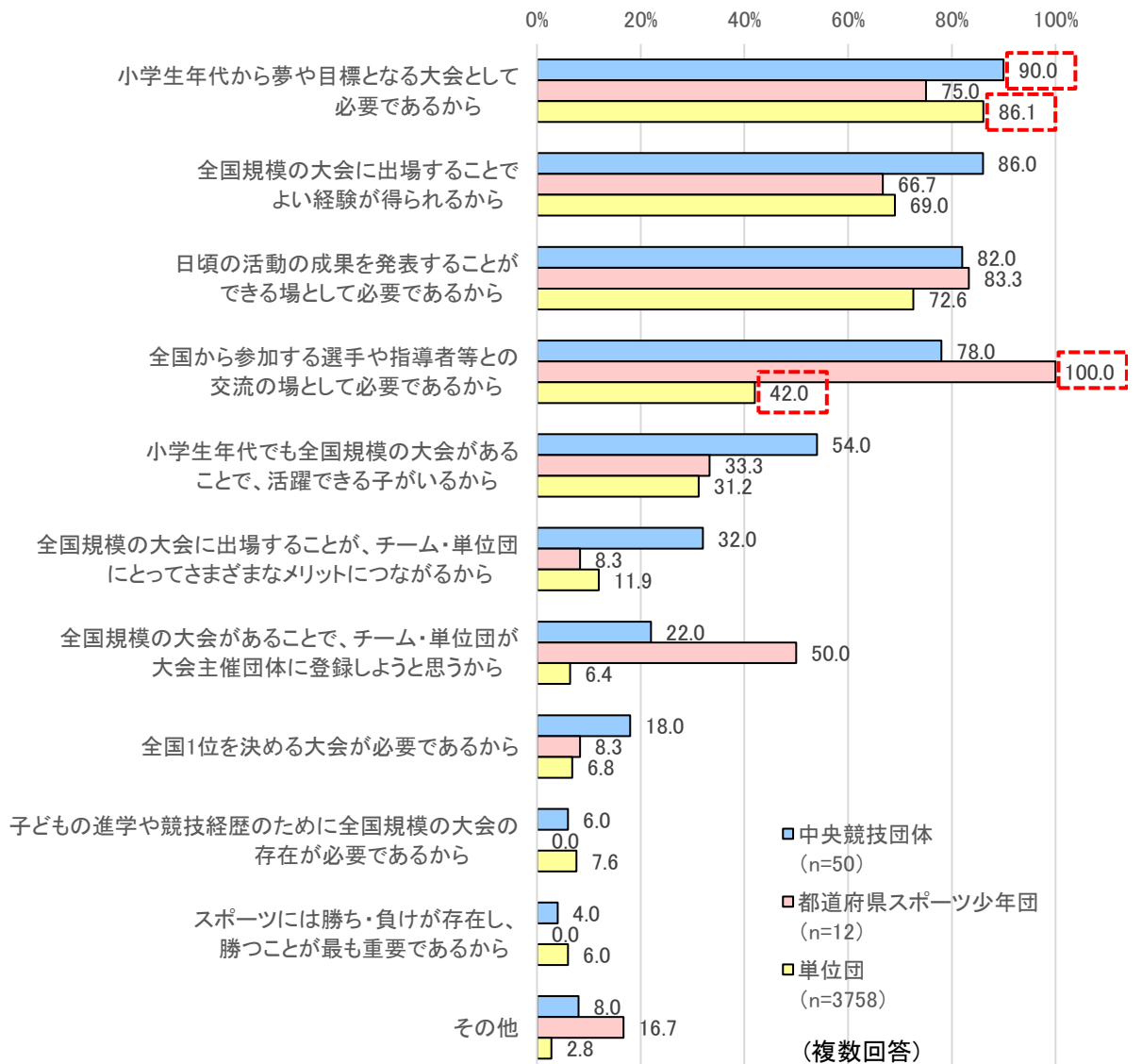
小学生年代の全国大会の必要有無 (①中央競技団体／②都道府県スポーツ少年団／③単位団 比較)

①中央競技団体 ②都道府県スポーツ少年団 ③単位団

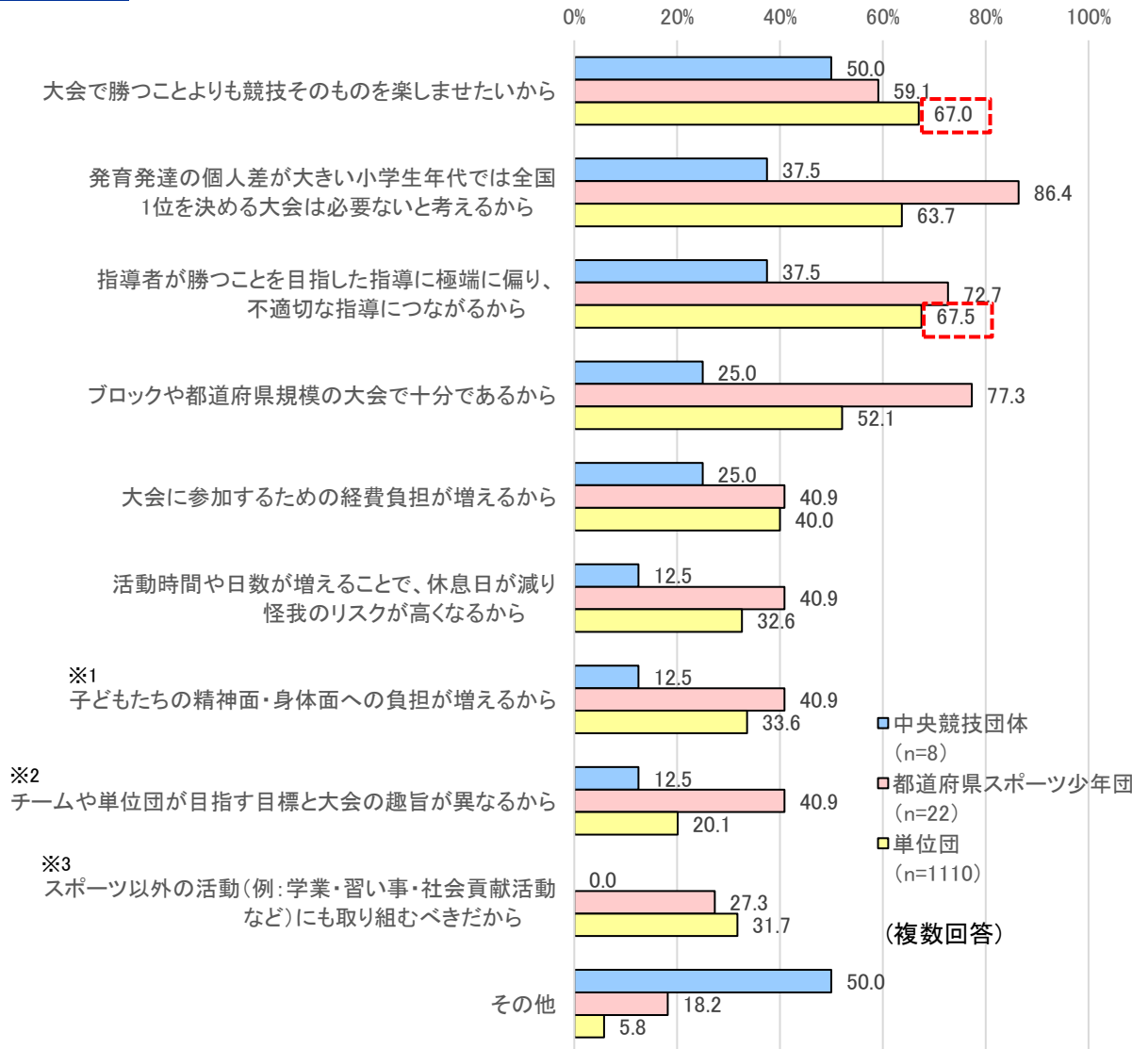
(図 9)必要有無



(図 10)必要理由 (対象者:「全国規模の大会の必要有無」:必要である)



(図 11)不要理由 (対象者:「全国規模の大会の必要有無」:必要ではない)

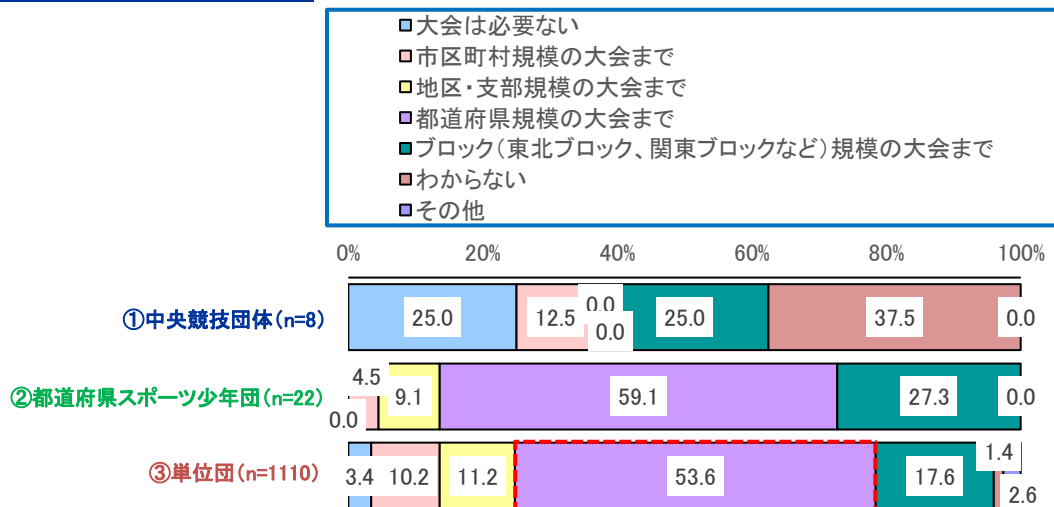


※1 都道府県スポーツ少年団/単位団 「団員の精神面・身体面への負担が増えるから」

※2 単位団 「単位団が目指す目標と大会の趣旨が異なるから」

※3 都道府県スポーツ少年団/単位団 「スポーツ以外の活動(例:学業・習い事・社会貢献活動など)にも取り組ませたいから」

(図 12)小学生年代に必要な大会規模 (対象者:「全国規模の大会の必要有無」:必要ではない)



小学生年代における大会の在り方

①中央競技団体

②都道府県スポーツ少年団

③単位団

(図 13)考えに当てはまるもの

